

第4章 地域の特徴を活かした産業の まちづくり

第1節 資源を活かして魅力を高める

第2節 地域のニーズを満たす産業を応援する

第1節 資源を活かして魅力を高める

1 農林水産業

基本方針

消費者との顔の見える関係づくりによる地産地消の拡大を促進するとともに、生産基盤や経営体制の充実による生産性の向上と、商業・観光分野等と連携した「横芝光ブランド*1」の確立などによる付加価値の向上を促進します。

現状と課題

農業の概要としては、平成17年現在の販売農家数は1,391戸、経営面積は2,532haで、いずれも平成12年と比較すると減少傾向にあります。また、平成17年の生産額は82億3千万円（米29.9%、野菜39.9%、畜産23.7%、その他6.5%）となっており、米価の低迷により野菜の割合が増加しています。

そんな中、食品の偽装表示などから来る食の安全・安心への関心の高まり、残留農薬のポジティブリスト*2導入などに加え、平成19年度から始まった品目横断的経営安定対策*3など、対応すべき新たな課題は山積しています。

また、後継者不足、高齢化、耕作放棄地の増大など、農業維持の構造的な問題も深刻化しており、収益性の高い魅力的な農業を目指して多様な振興策を展開する必要があります。

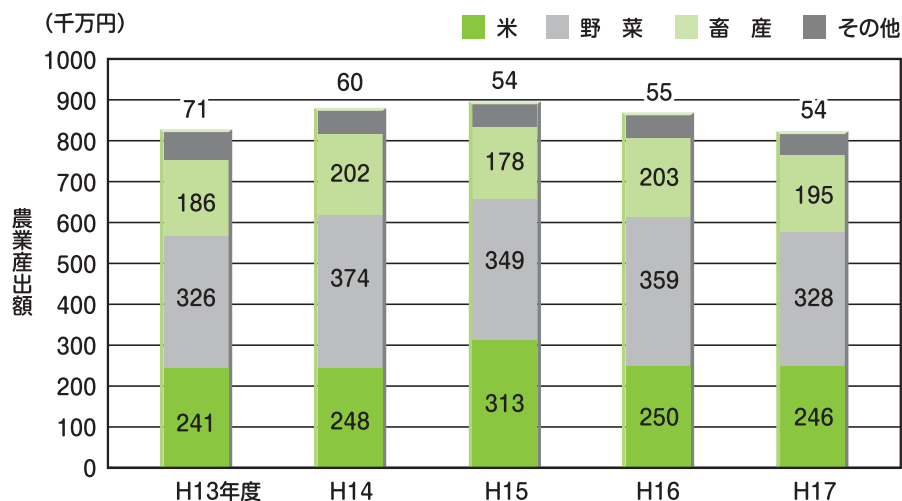
畜産については、衛生管理や環境対策が求められる中で生産性は高く維持しており、食肉センターの経営も安定的で雇用創出にも貢献していますが、今後は、こうした資源を活用し、畜産全体の付加価値を高めていくことが重要です。

こうした状況を踏まえ、農業生産基盤の拡充に向けて、ほ場の大区画化や集落営農組織の設立と認定農業者など担い手の育成を進める必要があります。

林業については、木材の生産をはじめ、水源のかん養や環境保全など、極めて重要な役割を担っていますが、高齢化に伴う労働力不足などで森林の荒廃が進んでおり、林業後継者の育成が急務となっています。

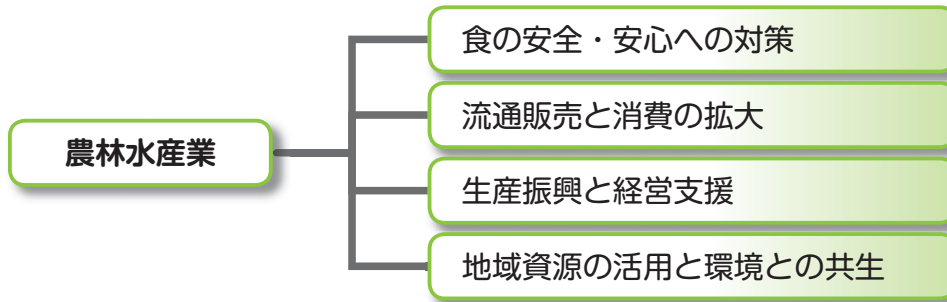
水産業については、拠点である栗山川漁港の航路が漂砂の堆積により利用できない状況にあるため、関係機関や近隣市町との協力により漂砂対策を推進し漁港利用の活性化を図る必要があります。また、高齢化による後継者の育成が急務となっています。

農業産出額の推移



資料：千葉県生産農業所得統計

施策の体系



施策の内容

(1) 食の安全・安心への対策

新鮮でおいしく、安全・安心を付加した消費者に信頼される農産物の生産拡大と食育の推進を通じて農林水産業への理解向上を図ります。

主な施策・事業

- ちばエコ農業の推進
- 食の安全・安心体制の整備
- 食育の推進
- 食と農に対する理解促進

(2) 流通販売と消費の拡大

地産地消^{*4}等の販売促進に加え、農畜産物の加工などによる特産品開発を含め、日本一の安全・安心な「横芝光ブランド」の確立を推進し全国に広めます。

主な施策・事業

- 横芝光ブランドの確立
- 特産品の開発促進
- 消費拡大対策の推進
- 地産地消の推進
- 町内販売ネットワーク^{*5}の確立

(3) 生産振興と経営支援

農林水産業を担う経営体の育成支援とそれらを支える生産基盤の整備を促進し、魅力ある農村づくりを推進します。

主な施策・事業

- 米政策改革推進対策
- 農林水産業の経営体、担い手の育成
- 生産基盤の整備
- 土地改良施設の維持管理
- 個性豊かな産地づくり
- 優良農地の確保・保全の促進
- 漁港整備の促進
- 食肉センターの健全な運営（施設改修）

(4) 地域資源の活用と環境との共生

農地を保全し、豊かな自然や景観、文化を活用した都市と農村の交流や環境にやさしい農林水産業を推進します。

主な施策・事業

- 都市と農山漁村の交流の促進
- 山武杉の利用促進
- 農地・水・環境保全向上対策の推進

*1 ブランド：ある商品・サービスなどを象徴するもの（シンボルマークや模様だけでなく、想起される周辺イメージ全体も含む）

*2 ポジティブリスト：原則すべてを禁止し、“残留を認めるもの”を一覧表にしたもの（ネガティブリスト：原則自由で“残留してはならないもの”の一覧表）

*3 品目横断的経営安定対策：すべての農業者を対象に品目ごとに講じてきた施策を見直し、意欲と能力のある担い手に限定し、経営の安定を図るもの

*4 地産地消：地域生産地域消費の略、地域で生産された産物をその地域で消費すること

*5 ネットワーク：一般に、網状の組織・仕組み（人、情報、コンピュータなど）

2 観 光

基本方針

自然景観や産業・文化などの豊富な地域資源を十分に活かし、観光客の周遊化・リピーター^{*1}化を促して、人々の往き来を特産品づくりや商業・サービス業など、地域の活性化につなげます。

現状と課題

本町の観光資源としては、初日の出イベント、坂田城跡の梅まつり、桜まつり、海水浴場開設、花火大会、サーフィン、鬼来迎などがあり、年間約25万人の観光客が来訪しています。

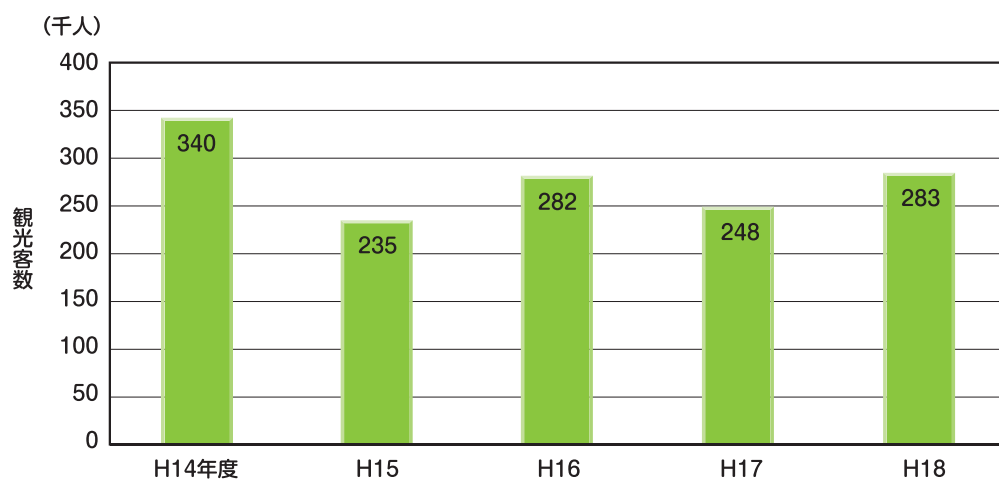
また、町のシンボルである栗山川は釣り客も多く、千葉県で唯一、遡上するサケやその捕獲の様子が見られることで広く知られるようになりました。

しかし、現状は日帰り客がほとんどであり、宿泊は減少の一途をたどっており、25万人の来訪者に町内を周遊してもらい、消費につなげていくことが課題となっています。

このため、交通利便性を活かした体験農業・グリーンツーリズム^{*2}や豊富なスポーツ施設と連携した滞在型レクリエーション^{*3}など、地域資源を活かした新たな魅力の創出と、そうした観光と消費の核となる機能の整備、また、それらのネットワーク化が必要です。

また、このように新たな展開をめざすためには、行政や関係団体に加え、地域組織や住民が“おもてなし”の精神を共有し、それぞれが自立的な活動を役割分担しながら進めていくことが必要となります。その中で、定年退職者など地域住民のボランティア^{*4}としての協力を得ることも重要です。

■ 観光客入込状況



資料：産業振興課

*1 リピーター：繰り返し来る人、常連客

*2 グリーンツーリズム：緑豊かな農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動

*3 レクリエーション：余暇活動、娯楽

*4 ボランティア：自主的に社会事業等に参加し、奉仕活動をする人

施策の体系



施策の内容

(1) 観光基盤の充実

関係団体や民間事業者、住民の間の連携を促進し、観光ルート^{*5}づくりや交通機能の充実を進めて、滞在型の観光を振興する基盤を充実します。

主な施策・事業

- 関係団体の運営の活性化
- 農林漁業と観光の連携促進
- 地域振興施設の整備
- 観光情報の発信
- 広域的な観光ルートの創出
- 周遊のための交通機能の充実
- 水辺ウォークの環境整備

(2) 観光資源の活用・開発

豊かな自然や歴史、それらを活かしたイベントなど、既存の観光資源をつなぎ、活用するとともに、観光客のニーズ^{*6}を的確にとらえ、体験型事業や地域ブランドづくりなど、新たな魅力の創出を支援します。

主な施策・事業

- 観光資源のネットワーク化
- グリーン・ブルーツーリズム^{*7}の振興
- 田舎暮らしの促進
- 栗山川のサケなどの川の資源の活用
- 特産品の開発促進
- スポーツ施設と宿泊施設の連携促進
- 町の魅力の発見・活用

*5 ルート：経路

*6 ニーズ：必要、需要、要求

*7 グリーン・ブルーツーリズム：グリーンツーリズムに加え、三方を囲む海も積極的に活用し、農林と水産が一体となって推進していくという千葉県の考え方

第2節 地域のニーズを満たす産業を応援する

1 商業・工業

基本方針

住民や地域のニーズに対応できるよう、商店間の連携や、商業と農業・観光との連携により、地域の特性を活かした商業の振興を支援します。

また、成田国際空港への近接性や広域交通の利便性を活かし、企業誘致に努めるとともに、それを活用した地元中小企業の技術力の向上と経営基盤の充実を支援します。

現状と課題

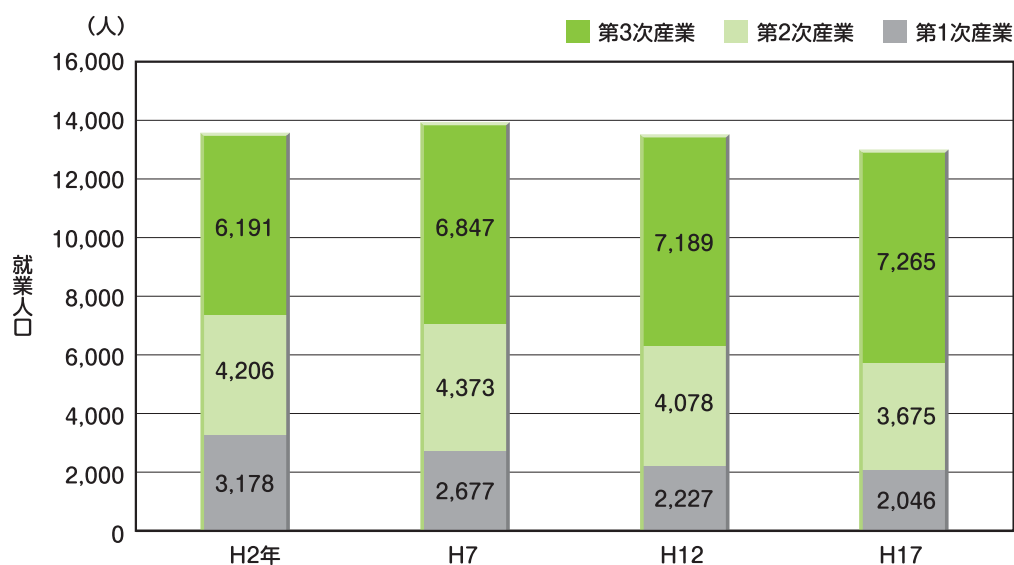
商業については、近年の大型店進出により、駅前を中心として地元商店街の空洞化が進み、年々空き店舗が増加しており、地元商店の後継者確保や経営改善が喫緊の課題となっています。

こうした状況を踏まえ、合併により新たに誕生した商工会を基軸に、地域住民のニーズを捉えた商店街づくりで現状打破を目指しているところであり、横芝光 IC 周辺隣接地に整備を計画中の地域振興施設（チャレンジハウス等）など、新たなにぎわいを創りながら、町全体にとっての地元商業の意義について認識を共有することが重要となっています。

工業については、従業者数と製造品出荷額等は平成14年度に減少した後、増加傾向にあります。経済の構造的な転換や原油価格の高騰による影響など、地方経済を取り巻く環境は厳しさを増しており、町内の中小企業の多くが経営改善に努めているのが現状です。

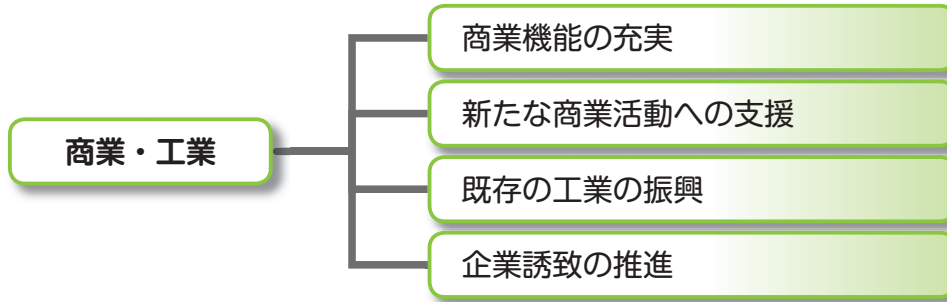
今後は、県外も含めた異業種との交流や情報交換なども促進しながら、地元中小企業を活性化していくことが課題です。

■ 就業人口の推移



資料：国勢調査

施策の体系



施策の内容

(1) 商業機能の充実

商店経営の基盤強化を支援するとともに、都市形成の面から中核的商業地の形成を促進します。

主な施策・事業

- 人材育成の支援
- 融資制度等の活用促進
- 商店会・商店街等の組織活性化の促進
- 市街地形成と合わせた商業機能の充実

(2) 新たな商業活動への支援

消費者ニーズをとらえた地域ブランドの開発・発信や共同店舗の開発など、商店間の連携を促進するとともに、商業と観光の連携による、新たな価値の創出を支援します。

主な施策・事業

- 地域ブランドの創出
- 土産などの特産品の研究
- 農業・観光との連携
- 商工会活動の支援
- 地域振興施設の整備

(3) 既存の工業の振興

製造技術の向上や経営革新を促進するとともに、異業種交流や情報交換など、企業間の連携を促進し、既存の町内中小企業の経営充実を支援します。

主な施策・事業

- 製品の開発・品質向上の支援
- 融資制度等の活用促進
- 関連情報の提供とネットワーク化

(4) 企業誘致の推進

新たな雇用機会を創出し、若者などの定住を促すため、町内にある工業団地へ、周辺環境と共生することのできる優良企業の誘致を図ります。

主な施策・事業

- 工業団地への企業誘致
- 町内産業に関する情報の発信

2 産業活性化

基本方針

若者や女性、高齢者も含め、一人ひとりが仕事で個性を発揮し、町の活性化にもつながるよう、雇用を促進するとともに、新たな産業の創出を支援します。

現状と課題

本町では、人口構造の変化にともない、就業人口が減少しています。なかでも、10代後半の流出が顕著であり、学校卒業後、町外に出て行く動きが読み取れ、こうした若者の流出の一つの要因として、仕事や就職機会が少ないことが考えられます。その一方で、50代後半では若干の転入者があるのも特徴です。

このため、町の活性化には元気に働く人々と元気に働ける環境が必要であり、若者、女性、高齢者の就業を促進するためには、従来の企業誘致に加え、柔軟に働ける個人事業や地域に密着したコミュニティビジネス^{*1}などの新しい形態の起業への支援も有効と考えられます。

また、ビジネスの機会を生み出す人や情報のネットワークの形成、時代に応じた職業能力の育成、事業経営に関する専門知識の育成などの環境整備も重要となります。

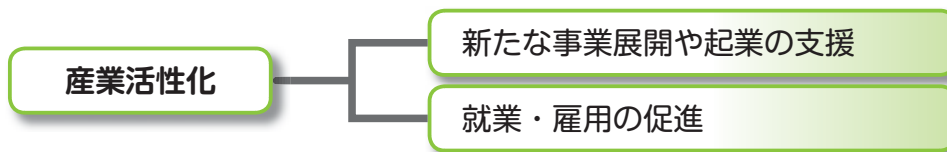
さらに、既存産業についても、雇用を促進するための情報提供などを充実していく必要があります。



産業まつり

*1 コミュニティビジネス：住民が主体となって地域の課題をビジネスの手法で解決し、その活動の利益をコミュニティに還元することによって、コミュニティを再生・活性化する取組み

施策の体系



施策の内容

(1) 新たな事業展開や起業の支援

福祉など、生活関連産業など地域のニーズに対応できる新たな事業を育成するため、NPO*2なども含む多様な交流を促すとともに、起業などに向けた相談や技術・知識などの情報提供の充実に努めます。

主な施策・事業

- 人と情報のネットワーク化の促進
- 起業や業種・業態転換への支援
- 地域振興施設の整備
- 空港への近接性など地域情報の発信

(2) 就業・雇用の促進

誰もが自分の能力を活かして働けるよう、能力向上に対する支援や雇用に関する情報提供の充実に努めるとともに、働きやすい就業環境の充実に進めます。

主な施策・事業

- 職業能力の育成の促進
- 就労情報の提供
- 子育て支援の充実

*2 NPO：Non-profit organization の略、非営利組織